

令和2年度 1学期末学校評価の結果から

1学期末の学校評価にご協力をいただき、ありがとうございました。学校では、これらの結果を教育活動に生かし、子供たち一人一人が活動に意欲的に取り組み、充実感や成就感を味わえるよう、全教職員で支援・指導をしていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひします。

児童アンケートの集計				「4:強く思う」の割合は50%以上、「4:強く思う」と「3:そう思う」の合計の割合は80%以上を目標にしています。 両方を達成できたら◎、どちらか一方を達成できたら○、どちらも達成できなかったら▲と評価しています。	
評価	No.	設問	「4+3」の割合(%)		
			R2	R元	
◎	①	学校へ元気に登校している。	93	92	設問1
○	②	明るいあいさつ(「おはよう」、「さようなら」)、元気のよい返事(「はい」)、感謝の言葉(「ありがとう」)をいつも言っている。	86	90	設問2
○	③	友達の話や気持ちを聞き、進んで協力したり助けたりしている。	89	89	設問3
◎	④	学級や学校のきまり、家の人との約束を守っている。	92	91	設問4
◎	⑤	自分の目当てを決め、達成しようと努力している。	88	90	設問5
◎	⑥	最後まであきらめず、がんばろうとしている。	92	91	設問6
○	⑦	授業中、自分の思いや考えを発表したり、ノートやワークシートに書いたりしている。	80	86	設問7
◎	⑧	早寝・早起き・朝ごはんなど、規則正しい生活をしている。	85	89	設問8
◎	⑨	家では、宿題や自主学習、読書などで、決まった時間(10分×学年)以上の学習をしている。	88	88	設問9
◎	⑩	宿題や持ち物の忘れ物をしないように心がけている。	89	90	設問10

4: 強く思う 3: そう思う 2: あまりそう思わない 1: まったくそう思わない

保護者・児童アンケートの結果から

児童アンケートで気になるのは、設問⑦の「4:強く思う」「3:そう思う」の割合の合計が昨年度に比べ6%減少している点です。これは、各担任が休校措置による学習進度の遅れを取り戻そうとし、子供たち自身が自分の考えを書いたり、友達の考えと比べたりする時間を十分に確保できなかったことが原因の一つと考えられます。それを検証し、今後の授業改善に生かすことが必要だと感じました。また、設問⑧も同様に4%の減少がみられ、休校明けに子供たちが生活リズムを取り戻すのに時間がかかったのではないかと推測されます。

保護者アンケート(右記)では、設問③の回答の評価が例年のごとく「▲:どちらも達成できなかった」となっており、昨年度と比べても4%減少しています。明るい挨拶が交わされている地域には、不審者が侵入しにくい、つまり、防犯効果があると言われていひます。これまで、何年もかけて、運営委員会の児童を中心に、粘り強く日々の「あいさつ運動」を続けてきた結果、学校では、子供たちの挨拶が格段によくなっていると感じていひます。

「挨拶」は、人とのコミュニケーションの「最優先のツール」です。私たち大人が、率先して子供たちのお手本となる挨拶を交わすことが大事であると、改めて感じました。保護者の皆様と一緒に、子供たちがコミュニケーションのための当たり前のツールである「挨拶」を身に付けられるようにしていきたく思ひます。

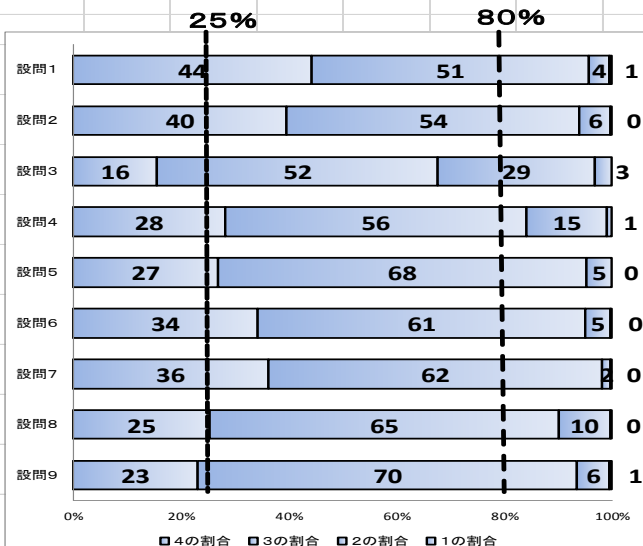
今後ともご協力の程、よろしくお願ひします。

< 学校教育目標 > 心身ともに健康で、自主的に実践する子供の育成
 【校訓】 賢く(知)、 仲よく(徳)、 強く(体)
 < 本年度の重点目標 > 他と関わりながら、自らを高めていく子供の育成

保護者アンケートの集計

評価	No.	設問	「4+3」の割合(%)	
			R2	R元
◎	1	子供は、元気に登校している。	95	95
◎	2	子供は、友達と仲よく活動している。	94	97
▲	3	子供は、友達や先生だけでなく、地域の人に、自分から先にあいさつをしている。	68	72
◎	4	子供は、早寝・早起きをして、朝ごはんを食べるなど、規則正しい生活をしている。	84	83
◎	5	子供をよく理解し、相談に応じてくれる。	95	94
◎	6	学校便りや学年便り、ホームページ、連絡帳や電話で、子供の様子を知らせている。	95	95
◎	7	事故防止や子供の安全面に配慮した情報の提供や対策をとっている。	98	96
◎	8	子供が忘れ物をしないように努めている。	90	90
○	9	子供の話を聞き、よい面や努力を認め、励ますようにしている。	93	94
	10	平日、お子さんの家庭学習(宿題を含む)の時間はどれくらいですか。近いものを○で囲んでください。		

「4:強く思う」の割合は25%以上、「4:強く思う」と「3:思う」の合計の割合は80%以上を目標にしています。両方を達成できたら◎、どちらか一方を達成できたら○、どちらも達成できなかったら▲と評価しています。



4:強く思う 3:思う 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない

◎グラフ中の「0」は、四捨五入した場合に「1%」にはならない割合であり、純粋な「0」ではない場合を含みます。

家庭学習の時間 目標(10分×学年)達成率 ※1年生は20分間
 ※2年生以上は、昨年度の1学期末評価時の割合がR元の欄に示してあります。

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
R2	96%	93%	85%	56%	65%	71%
R元	—	100%	97%	77%	66%	74%



保護者アンケート自由記述より

貴重なご意見、ご提言等、たくさんいただきありがとうございました。

家では、超負けず嫌いで、勝負事に負けると泣くか、怒ります。(わざと負けたといい訳をすることも) 学校では、問題なく過ごしているでしょうか。

お子さんの普段の様子から、学校での生活で問題を起こしていないだろうかと心配される保護者の方からのお尋ねです。これを拝読し、そういえば、私の子供も勝負事で負けると、負けを素直に受け入れられずに、よく泣いたり途中で投げ出したりしたなあと今年30歳になる次男の当時の顔を思い浮かべました。

「負けず嫌い」であるということは、その子の中に、「上手になりたい」とか「認められたい」という思い、エネルギーが満ちあふれている証拠でもあり、とても、素晴らしいことだと思います。

では、勝負事に負けるときにどう接すればよいのでしょうか。私は次のようなことが大事だと考えています。一つ目は「悔しかったね」という子供の気持ちへの共感。二つ目には、「どうすれば次に勝てるようになるかな」という問いかけ。三つ目には、次に向かって工夫する子供の姿の見守り。四つ目には、次の機会に努力や工夫したところが生かしていたことを褒めること。結果ではなく過程を褒めることです。このことに、早く気付いていたら、私の子育ても少しはましになっていたかもしれないと、次男の顔を思い浮かべながら思います。